

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成18年9月分)

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	調味材料製造業	醤油の出荷量は前年同月比かなりの減少となった。4ヶ月連続で減少となっており、低迷が続いている。
	パン・菓子製造業	特別注文等で売上が夏に比べやや増加したものの前年度に比べて売上が減少している。
繊維・同製品	織物業	ヤングやミセス層のファッションのトレンドをうまく捉え、比較的好調な企業や景気回復の波及効果により売上が好転しているところが見られる様にはなっているものの、極一部分に留まり、総じて高品質対応と強い低コスト要請や開発費の増大、圧迫により厳しいまま推移している。
	ねん糸製造業	今日、ストレッチ繊維は機能性に高い評価が得られ、パンスト、タイツ、靴下、インナー、スポーツから一般衣料へと需要が広がっている。
	その他の織物業	9月度は、昨年同月に比べ8%の売上増加となった。本年度に入り初めて対前年同月比プラスとなった。操業度は依然として停滞しており、今後の見通しは楽観を許さないが、改善へと繋がる事を希望したい。
木材・木製品	製材業、木製品製造業	昨年に比べて入荷量は順調に推移している。
	製材業、木製品製造業	9月度の売上は良好だが資材の高騰が止まらない。先の価格が読めない生産者として非常に厳しい状態が続いている。特に合板関係では物が無く、配給に近い状態まで来ていて価格、量の両面で苦労している。
窯業・土石製品	砕石製造業	9月の組合取扱出荷量は対前年同月比アスファルト合材向け出荷が14.6%、生コン向け出荷が2.2%増加し、全体出荷量でも3.6%の増加となった。4月から9月の上半期の出荷量では対前年同月比生コン向け出荷は横ばいであったが、合材向け出荷が17.9%、全体出荷量で20.2%の増加となった。
	陶磁器・同関連製品製造業	産地大見本市では前回より来場者数が20%程度減少した。
	生コンクリート製造業	県内の9月の生コンクリート出荷状況は、前年同月比93.7%とマイナスの出荷量となった。地区別では金沢、鶴来・白峰、能登がプラスとなったものの、南加賀、羽咋・鹿島、七尾地区はマイナスで推移した。その他官公需は前年同月比84.1%、民需は前年同月比109.9%で推移した。
	粘土かわら製造業	一戸建住宅の着工数が減少し洋風住宅が多くなっている。その他屋根材が多種多様となり和型陶器瓦の需要が減少している。
鉄鋼・金属	一般機械器具製造業	活況のため各企業は増設が終わったが、新たな増設のために土地を求めている企業が出て来ている。
	非鉄金属・同合金圧延業	特に変化は認められない。
	鉄素形材製造業	業況には特に目立った動きは見られない。しかしここにきて受注の引き合いはあるものの、県内では対応の厳しいものばかりで受注に結び付かない傾向が見られるようになってきた。
	鉄素形材製造業	前年同月と比して各指標に変化は無く順調に推移している。

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成18年9月分)

一般機器	繊維機械製造業	機械業界（鑄造、鍛造、プレス、機械加工等）は好調が続いており、設備機械の導入が進んでいる。昨年からの初めにかけて注文した大型機械も続々と入ってきている。
	プレス、工作機械	中間決算期でもあり受注量も多く、しかも納期厳守が強く要求され大変忙しい状況であった。
	機械器具及び其の他金属製品の製造	自動車関連は依然好調であるが、他方、公共事業関連等に業況が悪化している傾向も見られる。
	機械金属、機械器具の製造	工作機械や繊維機械は相変わらず好調である。各金融機関からは短期プライムレートの上昇に伴う貸出金利改定の通知が出されており、今後の投資意欲への影響に注目していきたい。
その他の製造業	漆器製造業	9月中旬に開催された見本市では、来場バイヤー数は増加したが売上額は減少した。また昨年対比で記念品需要等のまとまった引き合いは増加傾向にあるが、長引く需要低迷による在庫調整等で産地問屋としての機能が低下しており、納期などの面で対応しきれないため思うように販売額を伸ばせないというもどかしい状況が見られる。

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
卸売業	繊維品卸売業	商況は依然として良くない状況にある。
	農畜産物・水産物卸売業	売上高が先月に引き続き横ばいとなり減少が止まったのはうれしい限りである。今後の推移を注視していきたい。
	一般機械器具卸売業	建設業は相変わらず良くない。住宅関連が少しだけ持ち直しているだけで、電材業以外の家電販売等も何とか食い繋いでいる状況である。
小売業	燃料小売業	月初の値上げが浸透し、毎回繰り返す値崩れも無く価格は比較的安定している。しかし掛売の値上げ交渉は抵抗が強い。価格高騰と節約志向で売上は前月比、前年比共に減少している。
	機械器具小売業	8月度も売上は好調であったが、9月に入ってから液晶・PDPテレビ、ルームエアコンの売れ行きは好調で地域店の伸びも110%と好調を維持している。
	男子服小売業 婦人・子供服小売業	9月初旬までは残暑が厳しく今月も前年クリアーが不可能ではと思われたが、中旬以降は天候の異常も無く、秋らしい天候に恵まれ順調に秋物製品が売れた。前年もクリアーする事が出来た（対前年同月比104.5%）。
	鮮魚小売業	9月に入り底引網漁が解禁となり消費者への魚食普及を行っている。10月は各種イベントが開催されるので売上に結び付けたい。
	他に分類されない その他の小売業	昨年の9月は3連休が2度あったが、今年は1回だったことが売上減につながった。
	百貨店・総合スーパー	9月の売上は、予算比89.5%、前年比101.2%と前年をクリアーした。1ヶ月を見ると良い日と悪い日が2～3日交互に続いた月であった。また月末に発行したチラシは効果があり3日間で前年比102.7%の売上を上げた。
	米穀類小売業	今年の新米は収穫量も多く農家直売・縁故米の流通量がさらに多く、小売店の販売に多大の影響を与えている。また量販店の安売りが進み、小売販売業者は苦慮している。
非製造 商店街	近江町市場	来街者の減少が見受けられる。
	尾張町商店街	秋のイベントシーズンの到来。これから来月にかけて各地各所で日曜祭日ごとになにかしらのイベントが行われる時期となってきた。幸いな事に今年は日本列島の日本海側には台風の影響があまり無いのでイベントの開催には大きな支障も無く行われた。ただイベント会場近くに店舗が無い場合は、天候に恵まれるほど一般来街客が減るといった不可思議な状況が現出している。

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成18年9月分)

業	サービス業	旅館、ホテル	学会やスポーツ大会等により各施設は昨年に比べ利用数が増えている。また連休もあったため個人客の金沢への入込みも好調である。
		旅館、ホテル	夏休みが終わり業界はオフ期に入っている。10月以降の行楽シーズン、忘年会需要等に期待したい。
		自動車整備業	継続検査実績車輛数は、前年同月比4.0%減、前月比22.9%増となった。新規検査状況は、前年同月比3.0%減、前月比40.4%増となった。
		旅館、ホテル	企業全般では景気回復と言われているものの、過去の例からも観光産業への好影響が鈍く遅い。近年、消費志向の多様化が増し、価値観の捉え方からこれまでにない多くがライバルとなって、特に旅館における宿泊等の消費には厳しさが強まっていて回復の期待や楽観は許されない現状にある。
	建設業	一般土木建築工事業	建設工事の受注高は前年同月比27.7%減となった。内訳は民間土木2.7%減、民間建築927.0%減となり、民間全体では22.3%減となった。公共土木は23.2%減、公共建築は49.2%減となり公共全体では30.4%減となった。
		一般土木建築工事業	官公庁発注工事の減少により利益率の低下が大きい。一方、民間工事は若干増加しているものの資材等の仕入れ単価の上昇にもかかわらず、請負価格は低下したままで、工事利益を確保するのに困難な状況である。
		板金・金物工事業	仕事量はあるが単価が安い。売上は停滞しているが忙しい日々が続いている。材料費の値上げが収益の悪化の原因となっている。
	運輸業	一般貨物自動車運送業	軽油価格は9月は横ばいで推移した。10月は値下げとの見方。まだまだ運賃転嫁は進まず、行政の迅速な対応を希望する。
		一般乗用旅客自動車運送業	景気動向の地方への波及は今一歩で、各事業者とも好転の兆しを掴み取る状況には至っていない。しかし、このところの飲酒運転批判に対する世論の高まりからか、総体的にタクシー利用回数が増えている傾向は見取れる。なお、運送事業の経営を左右する燃料費については、早急な対策を望む声が業界全体で一層強くなってきている。
		一般貨物自動車運送業	若者の運転手採用が難しい状況。地域や車種によっては運転手不足が生じている。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等